

事務事業名	楡形山アヤマ保全対策事業		所属部局	農林商工部		単位番号	6212							
			所属課室	みどり自然課		課長名	戸栗 香							
	☐ 実施計画事業		所属担当	自然保護推進		担当者名	河西 雅彦							
基本政策	基本計画体系	IV	快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目			
		19	自然環境の保全と活用		01	一般	0	6	0	2	0	1	0	2
政策	施策	32	自然と共生する地域づくり	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金									
事業期間		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度) 年度)			法令根拠	楡形山アヤマ保全対策調査検討会設置要綱								
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 楡形山アヤマ平及び裸山のアヤマが全滅状態となり原因調査のための調査検討委員会を設置し、野生動物による食害防止ネットの設置や生育状況の調査と、植物・動物の希少種保護を図る			事業費の主な内訳 (22年度)										
				項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)				
				作業員賃金		360		委託料		178				
				検討委員報償		100		原材料費		641				
				報償金		30								
				消耗品費		171								
				保険料		20		計		1,500				

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動

22年度活動実績

23年度活動予定

② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)

④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)

⇒

⇒

⇒

⇒

⇒

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円	30	630	30	30	30	30	
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	476	870	879	10,298	329	329	
	事業費計 (A)		千円	506	1,500	909	10,328	359	359	0	
	人件費	正規職員従事人数	人								
		延べ業務時間	時間		250	250	280	280	280		
		人件費計 (B)	千円	0	1,115	991	1,109	1,109	1,109	0	
		(A)+(B)		千円	506	2,615	1,900	11,437	1,468	1,468	0
活動指標		回数		5.0	8.0	8.0	10.0	10.0	10.0		
		アイウエ									
対象指標		㎡		625.0	3,125.0	3,125.0	3,125.0	3,125.0	3,125.0		
		アイウエ									
成果指標		本数		10.0	26.0	30.0	60.0	120.0	240.0		
		アイウエ									
上位成果指標		㎡		10.0	26.0	30.0	60.0	120.0	240.0		
		アイ									

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？

② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？

③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？

平成18年頃より裸山及びアヤマ平のアヤマ等の植物が激減し絶滅状況になり原因等を調査し、鹿の食害等による被害が多く見られるため、食害防止ネット(保護柵)を設置し、状況調査を行う事とした。

平成19年度より数箇所、食害防止ネット(保護柵)を設置し、状況調査を継続してきたところ保護柵内と外の状況が明らかに変わって、アヤマの開花も確認でき、今後はネットの維持管理と調査を続ける。

平成21年度にセンサーカメラを設置し、シカの食害が確認出来た事を受け、シカの捕獲等の要望が多くある。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？

② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)

③ H 22年度に実施した改革改善の内容

☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】

柵内での多種調査(調査用防護柵内を区切りアヤマ以外の草花を放置する所、刈り取る所、抜根する所等に分けて状況調査)

防護策の設置

事務事業名	楡形山アヤメ保全対策事業	所属部	農林商工部	所属課	みどり自然課
-------	--------------	-----	-------	-----	--------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 自然と共生する地域づくりと題して必要な保全対策を講じていく事が文章化されている。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 民間やNPOへの作業を委ねる事は出来るが予算は市が負担する事なる。
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 保護柵の中は植物の生育が順調であるため、継続して維持管理する必要がある。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 保護柵の設置で、アヤメ開花の確認ができたので、今後は、食害を防止することでなお一層の開花が見込める。
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 今はまだ調査の時期であり今後は保護活動に取り組む事が必要になるため。 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 防護柵設置、現地調査を実施してアヤメの保全を継続しないと激減してしまう。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 昨年度、過去最大規模で開花の見られた場所へ保護柵を設置したので、今後は現在の調査結果により数年間は保護柵のメンテナンス及び修繕のみで新規設置は必要ないと思われる。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 今後は、保護柵のメンテナンス及び修繕のみの対応で開花を調査していく
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 自然環境の保全によるアヤメの復活が目的のため、市民に公正・公平である。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	アヤメの保全対策については、平成19年に楡形アヤメ保全対策調査検討会を立ち上げ、学術的な調査を3年間に渡り行ってきた。その結果を、平成23年3月に楡形山アヤメ保全対策調査報告書を取りまとめた。アヤメの消滅の原因究明とその対策について、平成23年6月に楡形山シンポジウムを開催し、市民に情報の公開とその対策に対する合意形成を図ることを目的に開催した。なお、アヤメ消滅の原因は、シカの食害によるものが大きいことと気候変動の変化も関わっているとの報告から今後、できる限りの保全対策を講じていく。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可 ☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果) (2) 改革改善案について ①保護柵の設置でアヤメ開花の確認ができたので、今後は刈り取、抜根、食害防止に努めていく。		(3) 改革・改善による方向性 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策 ①特になし		(5) 事務事業優先度評価結果 <table><tr><td>成果優先度評価結果</td><td>⑧</td></tr><tr><td>コスト削減優先度評価結果</td><td>⑥</td></tr></table>		成果優先度評価結果	⑧	コスト削減優先度評価結果	⑥																	
成果優先度評価結果	⑧																							
コスト削減優先度評価結果	⑥																							